

1

解答解説のページへ

直線 $l: y = x + a$ が曲線 $C: y = 2\sin x$ ($-\pi \leq x \leq \pi$) に接しているとき、次の問いに答えよ。ただし、 $a \geq 0$ とする。

- (1) a の値を求めよ。
- (2) 曲線 C と直線 l で囲まれた図形の $y \geq 0$ の範囲にある部分を、 x 軸のまわりに回転する。この回転体の体積を求めよ。

2

解答解説のページへ

行列 A と列ベクトル \vec{a} , \vec{b} を

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

とし、列ベクトル \vec{p}_n ($n=1, 2, \dots$) を

$$\vec{p}_1 = \vec{a}, \quad \vec{p}_{n+1} = A\vec{p}_n + \vec{b} \quad (n=1, 2, \dots)$$

で定める。このとき次の問いに答えよ。

- (1) $\vec{p} = A\vec{p} + \vec{b}$ を満たす列ベクトル \vec{p} を求めよ。
- (2) $\vec{q}_n = \vec{p}_n - \vec{p}$ ($n=1, 2, \dots$) とおく。 \vec{q}_{n+1} と \vec{q}_n の間に成り立つ関係式を求めよ。
- (3) $n=1, 2, \dots$ に対して A^n を求めよ。
- (4) \vec{p}_n ($n=1, 2, \dots$) を求めよ。

3

解答解説のページへ

t を実数とするとき、2 次方程式 $z^2 + tz + t = 0$ について、次の問いに答えよ。

- (1) この 2 次方程式が異なる 2 つの虚数解をもつような t の範囲と、そのときの虚数解をすべて求めよ。
- (2) (1) の虚数解のうち、その虚部が正のものを $z(t)$ で表す。 t が (1) で求めた範囲を動くとき、複素数平面上で点 $z(t)$ が描く図形 C を求め、図示せよ。
- (3) 複素数平面上で、点 z が (2) の図形 C 上を動くとき、 $w = \frac{iz}{z+1}$ で表される点 w が描く図形を求め、図示せよ。

4

解答解説のページへ

実数 x に対して、 $[x]$ は x を超えない最大の整数を表す。たとえば、 $[\frac{3}{2}] = 1$ 、 $[2] = 2$ である。このとき、 $0 < \theta < \pi$ として次の問いに答えよ。ただし、必要なら $\sin \alpha = \frac{1}{2\sqrt{2}}$ となる角 α ($0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$) を用いてよい。

- (1) 不等式 $\log_2 \left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] \leq 1$ を満たす θ の範囲を求めよ。
- (2) 不等式 $\left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right] \geq 1$ を満たす θ の範囲を求めよ。
- (3) 不等式 $\log_2 \left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] \leq \left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right]$ を満たす θ の範囲を求めよ。

5

解答解説のページへ

実数 t が $t \geq 0$ の範囲を動くとき、 xy 平面上で点 $P(t^2, e^{-t})$ が描く曲線を C とする。 a を正の実数とし、曲線 C と x 軸、 y 軸、および直線 $x = a^2$ で囲まれる部分の面積を $S(a)$ とする。このとき次の問いに答えよ。

- (1) 面積 $S(a)$ を求めよ。
- (2) $a > 0$ の範囲で関数 $S(a)$ の増減、凹凸を調べ、そのグラフの概形を描け。ただし、 $\lim_{a \rightarrow \infty} ae^{-a} = 0$ であることを用いてよい。
- (3) $S(a) = 1.35$ となる a が $2 < a < 3$ の範囲に存在することを示せ。ただし、必要なら $2.5 < e < 3$ であることを用いてよい。

1

問題のページへ

(1) $C: y = 2 \sin x$ より, $y' = 2 \cos x$ ここで, $y' = 1$ とすると, $\cos x = \frac{1}{2}$ $-\pi \leq x \leq \pi$ から $x = \pm \frac{\pi}{3}$ となり, 接点の座標は,

$$\left(\frac{\pi}{3}, \sqrt{3}\right), \left(-\frac{\pi}{3}, -\sqrt{3}\right)$$

 $x = \frac{\pi}{3}$ のとき, 接線の方程式は,

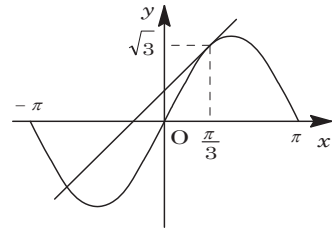
$$y - \sqrt{3} = x - \frac{\pi}{3}, \quad y = x + \sqrt{3} - \frac{\pi}{3}$$

 $x = -\frac{\pi}{3}$ のとき, 接線の方程式は, $y + \sqrt{3} = x + \frac{\pi}{3}$, $y = x - \sqrt{3} + \frac{\pi}{3}$ すると, $a \geq 0$ から, $a = \sqrt{3} - \frac{\pi}{3}$ である。(2) 接線と x 軸の交点は, $y = 0$ として, $x = -\sqrt{3} + \frac{\pi}{3}$ となる。よって, 求める回転体の体積を V とすると,

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \pi (\sqrt{3})^2 \left(\frac{\pi}{3} + \sqrt{3} - \frac{\pi}{3}\right) - \pi \int_0^{\frac{\pi}{3}} (2 \sin x)^2 dx \\ &= \sqrt{3} \pi - 2\pi \int_0^{\frac{\pi}{3}} (1 - \cos 2x) dx = \sqrt{3} \pi - 2\pi \left[x - \frac{1}{2} \sin 2x\right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \frac{3}{2} \sqrt{3} \pi - \frac{2}{3} \pi^2 \end{aligned}$$

[解説]

微積分の基本問題です。穏やかな始まりです。



2

問題のページへ

- (1) E を単位行列とすると、 $\vec{p} = A\vec{p} + \vec{b}$ ……①より、 $(E - A)\vec{p} = \vec{b}$
 ここで、 $E - A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ より、 $(E - A)^{-1} = 2 \cdot \frac{1}{1} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = 2 \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ となり、

$$\vec{p} = (E - A)^{-1}\vec{b} = 2 \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix}$$
- (2) 条件より、 $\overrightarrow{p_{n+1}} = A\overrightarrow{p_n} + \vec{b}$ ……②
 ①②から、 $\overrightarrow{p_{n+1}} - \vec{p} = A(\overrightarrow{p_n} - \vec{p})$ となり、 $\vec{q}_n = \overrightarrow{p_n} - \vec{p}$ とおくと、

$$\overrightarrow{q_{n+1}} = A\vec{q}_n$$
- (3) $A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ に対して、ハミルトン・ケーリーの定理から、

$$A^2 - A + \frac{1}{4}E = O, \quad \left(A - \frac{1}{2}E\right)^2 = O$$

 ここで、 $A - \frac{1}{2}E = B$ とおくと、 $B^2 = O$ から、

$$\begin{aligned} A^n &= \left(\frac{1}{2}E + B\right)^n = \left(\frac{1}{2}\right)^n E + {}_n C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} B = \frac{1}{2^n} E + \frac{n}{2^{n-1}} B \\ &= \frac{1}{2^n} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} + \frac{n}{2^{n-1}} \cdot \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} = \frac{1}{2^n} \begin{pmatrix} 1 & n \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$
- (4) (2)より、 $\vec{q}_n = A^{n-1}\vec{q}_1$ から、 $\overrightarrow{p_n} - \vec{p} = A^{n-1}(\overrightarrow{p_1} - \vec{p})$ となり、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{p_n} &= \vec{p} + A^{n-1}(\overrightarrow{p_1} - \vec{p}) = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix} + \frac{1}{2^{n-1}} \begin{pmatrix} 1 & n-1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -1 \\ -2 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix} + \frac{1}{2^{n-1}} \begin{pmatrix} -2n+1 \\ -2 \end{pmatrix} = \frac{1}{2^{n-1}} \begin{pmatrix} 2^n - 2n + 1 \\ 2^n - 2 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

[解説]

数列と行列の融合で、頻出問題の 1 つです。(3)では、二項定理を利用しましたが、推測→帰納法でも OK です。

3

問題のページへ

- (1) 2次方程式
- $z^2 + tz + t = 0$
- ……①が異なる2つの虚数解をもつ条件は,

$$D = t^2 - 4t = t(t-4) < 0$$

よって, $0 < t < 4$ となり, このとき①より, $z = \frac{-t \pm \sqrt{t^2 - 4t}}{2} = \frac{-t \pm \sqrt{-t^2 + 4t}i}{2}$

- (2) 条件より,
- $z(t) = \frac{-t + \sqrt{-t^2 + 4t}i}{2}$
- なので,
- $z(t) = x + yi$
- とおくと,

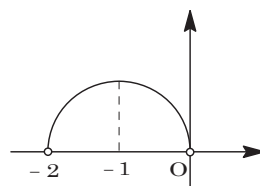
$$x = -\frac{t}{2} \dots\dots\dots ②, \quad y = \frac{\sqrt{-t^2 + 4t}}{2} \dots\dots\dots ③$$

②より, $t = -2x$ となり, ③に代入すると,

$$2y = \sqrt{-4x^2 - 8x}$$

 $y > 0$ で両辺を2乗すると, $4y^2 = -4x^2 - 8x$

$$x^2 + y^2 + 2x = 0, \quad (x+1)^2 + y^2 = 1$$

よって, 点 $z(t)$ の描く図形は, 右図のようになる。

- (3)
- $w = \frac{iz}{z+1}$
- より,
- $(z+1)w = iz$
- ,
- $(w-i)z = -w$
- ……④

ここで, $w = i$ とすると④は成立しないので, $w \neq i$ から, $z = \frac{-w}{w-i}$ ……⑤また, (2)より, 点 z は点 -1 を中心とする半径 1 の上半円を描くので,

$$|z+1| = 1 \dots\dots\dots ⑥, \quad |z-i| < |z+i| \dots\dots\dots ⑦$$

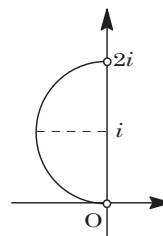
⑤⑥より, $|\frac{-w}{w-i} + 1| = 1$, $|\frac{-i}{w-i}| = 1$ となり, $|\frac{-i}{w-i}| = 1$ から, $|w-i| = 1$ よって, 点 w は点 i を中心とする半径 1 の円を描く。⑤⑦より, $|\frac{-w}{w-i} - i| < |\frac{-w}{w-i} + i|$, $|\frac{(-1-i)w-1}{w-i}| < |\frac{(-1+i)w+1}{w-i}|$ となり,

$$|(-1-i)w-1| < |(-1+i)w+1| \quad (w \neq i)$$

 $| -1-i || w + \frac{1}{1+i} | < | -1+i || w + \frac{1}{-1+i} |$ から, $\sqrt{2} | w - \frac{-1+i}{2} | < \sqrt{2} | w - \frac{1+i}{2} |$

$$| w - \frac{-1+i}{2} | < | w - \frac{1+i}{2} |$$

よって, 点 w は2点 $\frac{-1+i}{2}$, $\frac{1+i}{2}$ を結ぶ線分の垂直二等分線すなわち虚軸の左側にある。

以上まとめて, 点 w の描く図形は, 右図のようになる。

[解説]

複素数と軌跡に関する頻出タイプの問題です。なお, 軌跡の限界である z の虚部が正という条件は, ⑦で数式化しています。

4

問題のページへ

- (1) 不等式 $\log_2 \left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] \leq 1$ に対し, $\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] > 0$ ($\frac{5}{2} + \cos \theta \geq 1$) のもとで,

$$\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] \leq 2, \quad 1 \leq \frac{5}{2} + \cos \theta < 3$$

すると, $-\frac{3}{2} \leq \cos \theta < \frac{1}{2}$ となり, $0 < \theta < \pi$ の範囲では,

$$\frac{\pi}{3} < \theta < \pi$$

- (2) 不等式 $\left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right] \geq 1$ に対し, $\sin \theta > 0$ のもとで,

$$\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \geq 1, \quad \log_2 \sin \theta \geq -\frac{1}{2}$$

すると, $\sin \theta \geq \frac{1}{\sqrt{2}}$ となり, $0 < \theta < \pi$ の範囲では,

$$\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \frac{3}{4}\pi$$

- (3) 不等式 $\log_2 \left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] \leq \left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right] \cdots \cdots (*)$ に対して, $0 < \theta < \pi$ の範囲では,

$\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] > 0$ および $\sin \theta > 0$ は成立している。

ここで, $-1 < \cos \theta < 1$ より, $\frac{3}{2} < \frac{5}{2} + \cos \theta < \frac{7}{2}$ となるので,

$$\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] = 1, 2, 3$$

また, $0 < \sin \theta \leq 1$ より, $\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \leq \frac{3}{2}$ となるので, $\left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right] \leq 1$

- (i) $\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] = 1$ ($\frac{3}{2} < \frac{5}{2} + \cos \theta < 2$) のとき

まず, $-1 < \cos \theta < -\frac{1}{2}$ より, $\frac{2\pi}{3} < \theta < \pi \cdots \cdots \textcircled{1}$

(*) より, $0 \leq \left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right]$ となり,

$$\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \geq 0, \quad \log_2 \sin \theta \geq -\frac{3}{2}, \quad \sin \theta \geq \frac{1}{2\sqrt{2}}$$

条件から, $\sin \alpha = \frac{1}{2\sqrt{2}}$ ($0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$) なので, $0 < \theta < \pi$ の範囲では,

$$\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha \cdots \cdots \textcircled{2}$$

ここで, $\sin \frac{2\pi}{3} > \sin(\pi - \alpha) = \sin \alpha$ から, $\frac{2\pi}{3} < \pi - \alpha$ となるので,

①②より, 求める θ の範囲は, $\frac{2\pi}{3} < \theta \leq \pi - \alpha$ である。

- (ii) $\left[\frac{5}{2} + \cos \theta \right] = 2$ ($2 \leq \frac{5}{2} + \cos \theta < 3$) のとき

まず, $-\frac{1}{2} \leq \cos \theta < \frac{1}{2}$ より, $\frac{\pi}{3} < \theta \leq \frac{2\pi}{3} \cdots \cdots \textcircled{3}$

(*) より, $1 \leq \left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta \right]$ となり, (2) より $\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \frac{3}{4}\pi \cdots \cdots \textcircled{4}$

③④より, 求める θ の範囲は, $\frac{\pi}{3} < \theta \leq \frac{2\pi}{3}$ である。

(iii) $\left[\frac{5}{2} + \cos \theta\right] = 3$ ($3 \leq \frac{5}{2} + \cos \theta < \frac{7}{2}$) のとき

まず, $\frac{1}{2} \leq \cos \theta < 1$ より, $0 < \theta \leq \frac{\pi}{3}$

(*)より, $\log_2 3 \leq \left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta\right]$ となるが, $\left[\frac{3}{2} + \log_2 \sin \theta\right] \leq 1$ に反する。

(i)~(iii)より, 求める θ の範囲は, $\frac{\pi}{3} < \theta \leq \pi - \alpha$ である。

[解説]

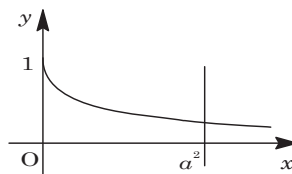
ガウス記号付きの不等式ですが, それに三角関数, 対数関数が混在し, 盛りだくさんです。(1)と(2), および(3)の一部が文系と共通です。

5

問題のページへ

- (1) t が $t \geq 0$ で変化するとき, $x = t^2$, $y = e^{-t}$ の描く曲線 C と x 軸, y 軸, および直線 $x = a^2$ で囲まれる部分の面積 $S(a)$ は,

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^{a^2} y dx = \int_0^a e^{-t} \cdot 2t dt \\ &= -2[te^{-t}]_0^a + 2 \int_0^a e^{-t} dt \\ &= -2ae^{-a} - 2[e^{-t}]_0^a = -2(a+1)e^{-a} + 2 \end{aligned}$$



- (2) $a > 0$ の範囲で, (1)より, $S'(a) = 2ae^{-a} > 0$

これより, $S(a)$ は単調に増加する。

さらに, $\lim_{a \rightarrow \infty} ae^{-a} = 0$ より,

$$\lim_{a \rightarrow \infty} S(a) = \lim_{a \rightarrow \infty} \{-2(a+1)e^{-a} + 2\} = 2$$

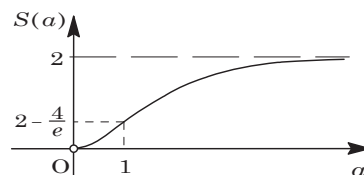
また, 凹凸については,

$$S''(a) = 2e^{-a} - 2ae^{-a} = 2(1-a)e^{-a}$$

まとめると, 右上の表となる。

以上より, $S(a)$ のグラフの概形は右図のよう

a	0	...	1	...
$S''(a)$		+		-
$S(a)$	0	∪	$2 - \frac{4}{e}$	∩



になる。

- (3) $F(a) = S(a) - 1.35$ とおくと, $\frac{5}{2} < e < 3$ から,

$$F(2) = S(2) - 1.35 = -\frac{6}{e^2} + 0.65 < -6 \cdot \frac{1}{9} + 0.65 = -\frac{2}{3} + 0.65 < 0$$

$$F(3) = S(3) - 1.35 = -\frac{8}{e^3} + 0.65 > -8 \cdot \frac{8}{125} + 0.65 = -\frac{64}{125} + 0.65 > 0$$

よって, $F(a) = 0$ は $2 < a < 3$ の範囲に解をもつ。すなわち, $S(a) = 1.35$ となる a は $2 < a < 3$ の範囲に存在する。

[解説]

第1問と同じく, 微積分の基本問題です。穏やかな終わりです。